

## 第9回秋季研究集会発表要旨

### ■午前研究発表

#### [発表1] 上田啓未(合同会社 AMANE)

##### 「金沢市教育プラザ所蔵のフィルム資料について」

合同会社 AMANE では、2014 年より金沢市教育プラザ所蔵の映像資料の調査とスライド写真資料のデジタル化事業を委託された。教育プラザには昭和 30 年代以降収集された幻燈フィルムと小中学校教員への委託制作による地域教育スライド資料が多数所蔵されている。調査により所蔵数・制作者等のメタデータを蓄積し、スライド写真資料には地域資料として重要と思われる写真が含まれている事が分かった。本発表ではこれらのフィルム資料の調査報告を行う。

#### [発表2] 阿児雄之(東京工業大学博物館)・嘉村哲郎(東京藝術大学芸術情報センター)・小林美貴

##### 「ICOM Milano2016 参加報告」

ICOM Milano2016 が、2016 年 7 月 4~9 日の日程で開催された。本大会は 3 年に 1 度開催される General Conference であり、世界各国から多彩な分野にて活躍する博物館関係者、約 3,500 名が参加した大規模なものであった。Keynote speech、発表者が主に参加した CIDOC SIG Session、各種イベントなど大会の様子を報告する。

#### [発表3]

#### 竹内俊貴(九州国立博物館学芸部文化財課アソシエイトフェロー)

##### 「九州国立博物館における文化財情報システムの活用」

平成 27 年度に開館 10 周年を迎えた九州国立博物館では、同年度から新たな業務システム「文化財情報システム」を運用しており、収蔵品と画像情報を関連づけて集約、陳列・貸与・修復・画像利用申請・Web 公開など各種業務の管理に活用している。当該システムを活用した情報管理において少なからず問題となっている”借用文化財”の事情に触れつつ、開館当初から”システム化”が念頭に置かれていた当館のシステムの現状と展望を報告したい。

#### [発表4] 丸川雄三(国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授)

##### 「文化遺産オンラインにおける制作者情報の統合研究」

日本全国にあるミュージアムの収蔵品情報をまとめて発信する文化遺産オンラインには、作品それぞれについて、画家や工房などの制作者に関する情報が登録されている。本研究では、これらの制作者情報を統合することを目標に、別途制作者データベースの構築および、文化遺産オンライン登録情報との照合手法の研究と開発を行っている。本発表では照合手法として特に名寄せについて説明し、文化遺産オンラインへの試行結果を示すとともに、その効果と課題を述べる。

#### [発表5] 研谷紀夫(関西大学総合情報学部准教授)

##### 「電子書籍と映像を用いた写真原板に関するリサーチプロファイルの作成

##### -西園寺公望・小泉策太郎関係写真資料を中心に-

戦前期の写真資料は紙焼き写真として遺されている場合も多いが、湿板や乾板などの原板資料として遺されている場合も多い。しかし乾板などは原板は実務で使用されなくなって久しく、その扱い方や技術的な知識が十分に継承されていない。また近年は、原板から直接デジタル化を実践する機会が多いが、その手法も公開され、共有化される必要がある。本研究では戦前期に活躍した政治家である西園寺を写した写真原板を対象としてその資料内容やデジタル化の方法を電子書籍の形式を利用したリサーチプロファイルとしてまとめた事例について解説する。

## ■東京都写真美術館レクチャー

### [レクチャー1]丹羽晴美(東京都写真美術館学芸員)

#### 「東京都写真美術館リニューアル・オープンと総合開館 20 周年記念展について」

2014 年秋からの改修休館を経て、2016 年秋にリニューアル・オープンした美術館の概要と、「杉本博司ロスト・ヒューマン」展を皮切りに 2017 年秋まで 12 本開催する総合開館 20 周年記念展について説明する。

### [レクチャー2]来代紀子(東京都写真美術館図書室司書)

#### 「東京都写真美術館図書室について」

東京都写真美術館図書室は、写真と映像に関する専門図書室として、写真集を中心に、展覧会カタログ、専門雑誌などを広く収集し、一般に公開している。その収蔵資料の特徴と整理・分類・公開方法について説明する。

## ■午後研究発表

### [発表 6] 島田匠子 (NHK 放送文化研究所メディア研究部)

#### 「放送関連資料のデジタル・アーカイブの試み～「放送文化アーカイブ」の現状と課題～」

放送の分野では、番組の映像・音声のアーカイブ化が進んでいるが、放送関連の文書資料の収集・保存・公開の状況は良いとは言えない。このため、NHK 放送文化研究所では、放送史に関連した資料や、番組制作に関する資料をデジタル化し、横断的に検索を可能にする「放送文化アーカイブ」の試みを進めている。今発表では、この「放送文化アーカイブ」のコンセプトと主要な機能を紹介しながら、今後の展望と課題を検討する。

### [発表 7] 阿児雄之 (東京工業大学博物館)

#### 「博物館・美術館フロアガイドの記載語句とピクトグラム使用分析—ウェブサイト掲載物を対象に」

博物館・美術館の来館者に対するアクセシビリティへの配慮として、フロアガイドを用意することはその一例である。特にウェブサイトにてフロアガイドが提供されていると、来館前に身体的障害をもっている人も観覧可能か判断したり、観覧の計画を立てたりすることが可能である。本分析では、フロアガイド作成する場合の、適切な提示情報整理を目的に、博物館・美術館ウェブサイトで提供されているフロアガイドに記載されている語句・ピクトグラムを分析した。